

郡山市文団連 ニュース

No. 105

2026年(令和8年)3月11日発行
《発行者》
郡山市文化団体連絡協議会
〒963-0107 郡山市安積一丁目30
安積公民館安積分室内
電話(事務局長・本田)090-8784-3240
発行人 春山秀城
編集長 戸井田 栄

郡山市文団連新春交流会



ご挨拶を頂いた
来賓の皆さん
(順不同)



椎根健雄 郡山市長



近内利男 郡山市議会議長



早崎保夫 郡山市教育長

令和8年1月25日午後5時からビューホテルアネックスで約90名の参加で盛大に開催された。

本田剛事務局長の司会、折笠光助副会長の開会の言葉でスタートし、春山秀城会長が「新年度に向け既に新体制でスタートしております。事務局が2年で交代する方式を採用し、連絡方法をアナログからデジタルへの変更等、限りある会費を有効に使います。今日の会の趣旨は、皆さんにとって有意義な交流の場になる事を期待しております」等と挨拶した。

次に御来賓の郡山市長の椎根健雄様が「今年はJRグループのデステイネーションキャンペーンや、県立美術館の大ゴッホ展、郡山市美術館の大浮世絵展等々が開催されます。皆様と共に芸術を広げていける様な予算化をして、一緒に活動して行ければと思います。」等とご挨拶を戴きました。次に郡山市議会議長近内利男様から「選ばれる街づくり推進課が4月から始動します。本市の特性を生かせる街づくり、その中で芸術文化も入っておりますので、新春交流会とすることで、皆様と意見を交換させて戴きたいと思えます」等とご挨拶を戴きました。

祝演奏に入り箏5名、尺八1名の生田流箏曲安つ美会による宮城道雄作曲「春の海」等が披露され、新年の始まりに相応しい清らかで華やかな雰囲気味わう事が出来ました。

演奏後郡山市教育長早崎保夫様のご発声による乾杯の音頭で交流会に入りました。交流会は和やかな雰囲気の中で進み、山本恭子副会長の中締め言葉でお開きとなりました。

第七十七回郡山市民文化祭主催行事

第四十四回「こおりやま邦楽の祭典」

を終えて

第77回郡山市民文化祭主催行事の「こおりやま邦楽の祭典」は令和7年11月9日けんしん郡山文化センターで開催され、盛況で終える事が出来ました。

【第一部】 ●郡山宝生流連合会の仕舞・巻絹・紅葉狩を7名で厳かに演能し開演した。【第二部】 雰囲気が変わり ●三味線藤本流秀建会で秋田船方節・村祭り等を迫力ある唄声と三味線の音色で演奏、続き ●堀内流民謡一藤会の相馬木挽唄・外山節の尺八や太鼓で大合唱。次いで、 ●津軽三味線三絃廣光会は津軽三味線の大合奏の迫力ある音色が会場全体に響き盛り上がりました。【第三部】 は三曲で ●生田流箏曲安つ美会の箏と尺八演奏箏四重奏、舞踏曲はワルツのリズムが楽しく心が和みました。 ●生田流箏曲和佳奈会は祇園の舞妓さんを美しく奏でた都踊りの曲。 ●郡山都

山会の尺八で朱竹三番叟は長唄・義太夫のリズムと異なり面白かった。 ●琴古流尺八東雲会は新曲花の季と多種多様で舞台に集中しました。【第四部】 舞踊は ●宗家藤蔭流三藤会が鶴（こうのとり）をオトギ話風に振り付けで踊った。 ●岩井流美穂会はお一人で寿松竹梅・むらさき小唄二曲を優雅に舞われた。 ●NP

○法人日本舞踊育成振興会は将来を期待する子供達による演舞藤の花・白虎隊・宮沢賢治雨ニモ負ケズの三曲を可愛く楽しそうに踊り客席を楽しませてくれました。 ●藤蔭流静和会は京都祇園の中心地丸山の風物詩、京の四季の趣。 ●藤蔭流美寿代会は祇園小唄・湯島の白梅・槍さびの小唄三題を4人で演じた。 ●藤蔭流玉枝会と ●花柳流美ちの会は連合で大和楽ひともじ舞踊夢・城・舞の三曲を18名が華麗に演じてくれました。そ

して最後は ●阿波踊りうつくしま連の迫力ある演舞で幕を閉じました。今年も皆様の御協力が無事終演することが出来ました。ありがとうございました。



委員長 藤蔭 篤也 運営委員



令和7年度第69回郡山市総合美術展 開幕式・表彰式と受賞者名

令和7年度第69回郡山市総合美術展表彰式は11月22日けんしん郡山文化センター5階集会室で開催されました。

春山秀城会長が「入賞の皆さんおめでとうございます。これからも頑張ってください」と挨拶。続いて吉田和春美展運営委員長が「今後の皆様の御活躍を御期待申し上げます」と挨拶。

式には早崎保夫郡山市教育委員会教育長が出席され「栄えある入賞おめでとうございます。今後とも個性溢れる作品を出して戴き文化芸術に御力添え戴きます様御願ひ申し上げます」とご挨拶戴き、続いて各部門の市長賞受賞者一人一人に賞を手渡されました。



市総合美術展表彰式

大賞以下の受賞者には春山秀城郡山市民文化祭実行委員長から手渡されました。
 ※市長賞から青少年賞までの受賞者は次の通り（作品名及び敬称は略）

【市長賞】木目沢義一（日本画）栗林洋子（洋画）富山好枝（彫刻・工芸）千田詔苑（書）熊田孝一（写真）

【大賞】齋藤志津子（日本画）河原朝子（洋画）城道秀壽（彫刻・工芸）鈴木蒼心（書）千葉盛敏（写真）

【特別賞】影山ミサ子（日本画）鈴木喜雄（洋画）鈴木嶺菜（彫刻・工芸）

【美術賞】吉田哲子（日本画）阿部健次・内藤ゆう・佐藤草翠・神田久・相楽澄男（洋画）南部雅郷（書）佐々木重春（写真）

【奨励賞】佐藤幸雄（日本画）鈴木麗乙絆・日下則夫・寺山瑞穂・澤宏志・石井志のぶ・大西尚子・加藤洋子・須藤文子・内島元子・鈴木七重・別府寿美子・佐藤栄子・只野謙次・宗形陽子・高田秀夫・佐藤裕・大野信一・遠藤秀雄（洋画）佐藤清雅（書）渡辺和久・佐藤幸雄・金子辰夫・加藤正幸（写真）

【青少年賞】芳賀駿・林ななみ（洋画）小林日和（彫刻・工芸）橋本結衣・青木咲郷（書）新井誉悠・白石滯莉（写真）

◎賞御協賛社名・株式会社日本測地コンサルタント・株式会社柏屋・株式会社福島民報社・株式会社福島中央テレビ・福島トヨペット株式会社・有限会社昭文堂郡山店・マチエール美術堂・陶房蜷川泰心窯（順不同・敬称略）御協賛感謝申し上げます。

第77回郡山市民文化祭 市長賞受賞作品紙上展
 第69回総合美術展



書／市長賞
 千田 詔苑
 『秋日江居写懐』



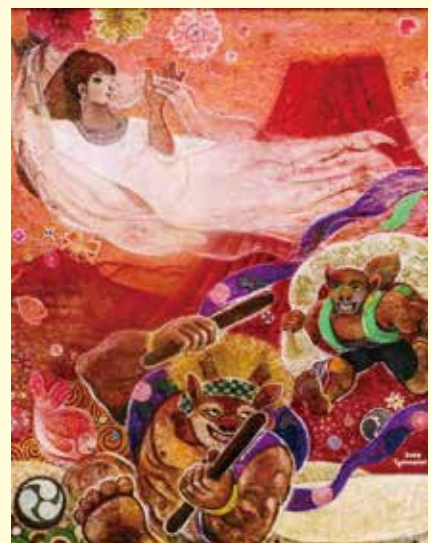
彫刻・工芸／市長賞
 富山 好枝『宇宙への憧れⅡ』



写真／市長賞
 熊田 孝一『愛の気持』



日本画／市長賞
 木目沢 義一『女神の塔』



洋画／市長賞
 栗林 洋子『永遠の永遠の永遠の』

「いおりやま洋舞の祭典2025」を終えて

運営委員長 郡 真由美

令和7年第77回郡山市民文化祭主催行事「こおりやま洋舞の祭典2025」は12月7日(日)午後1時より、けんしん郡山文化センターにて開催されました。

はじめに郡山市民文化祭実行委員会春山秀城実行委員長より挨拶が有り、開会いたしました。「こおりやま洋舞の祭典」は11年振りであり、出演者も180名にのぼり、各団体特色のあるステージを繰り広げました。

まず初めに◎フラ・ホニ・ケ・アロハ(辻フラスクール)の60名によるハワイアンフラをクリスマスマスパージョンで披露し幕を開け、次に◎横山慶子舞踊学園がレッスン作品より・コンクール作品・日本のうたをモダンダンスで表現。◎ダンススクエア・ドウは国際アート&デザイン大

学音楽科学生とともにオールジャンル作品を披露し、最後は◎竹内ひとみバレエスクールがクラシックバレエ「くるみ割り人形より」で締めくくり、盛会のうち無事幕を下ろすことが出来ました。

今回運営委員会の立ち上げから4ヶ月という短い期間の中で開催できたのは、出演4団体の並々ならぬ協力があってこそ思っております。更に観客も800名と多くの方に参加し、

来「多彩な舞が集う、心おどるステージ」であったことは実に喜ばしい公演となりました。



事務局だより

7月27日の開幕式を皮切りに、第77回郡山市民文化祭が開催され、多くの参加行事が行われました。各行事では、市民の皆様が日頃取り組まれている文化活動の成果を存分に発表され、文化の魅力あふれる催しとなりました。

今回、初めて市民文化祭実行委員会事務局として、中央公民館の担当の皆様とともに主催行事に携わらせていただきました。邦楽・美術・舞踊の各分野の先生方とお会いし、有意義な時間を一緒に過ごしましたことに、心より感謝申し上げます。

令和8年度に開催する第78回郡山市民文化祭においても、多くの皆様にご参加いただき、本市の文化活動がさらに広がっていくことを願っています。

また、加盟団体の皆様には、日頃の活動が高く評価され、令和7年に福島県および郡山市から次の方々が表彰されました。受賞された皆様に、心よりお祝い申し上げます。今後とも、本市の文化振興にお力添えをいただけましたら幸いです。

福島県各種功労者知事表彰

音楽の部

春 山 秀 城 氏

郡山市特別表彰

教育・文化興隆の功労

菅 野 和 子 氏

郡山市教育功労賞

鈴木 蒼 舟 氏

郡山市教育関係優良団体

水曜会

代表者 石 井 力 夫 氏

文化・スポーツ知事感謝状受賞

美術・日本画

吉 田 和 春 氏

福島県文化振興財団顕彰者

総合

國 分 重 信 氏

社会貢献につながる文化活動

大 河 峯 夫 氏 (郷土史誌)

編集雑記

「一年を振り返り」

文団連の総会に始まり役員の人として文団連に内側から関わらせて頂だいた一年でした。私自身は微力にもなれませんでした。私自身は微力にもなれませんでした。私自身は微力にもなれませんでした。

そんな中、私が一番記憶に残ったのは北茨城方面への日帰り研修旅行でした。様々なジャンルの方々との交流が出来てとても楽しい一日でした。まだ参加されていない方も次回は一緒にいかがですか。

編集委員(副会長) 長尾廣光